

東京岡山県人会



発行者：東京岡山県人会
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館10階
岡山県東京事務所 内
TEL.03-5212-9080
FAX.03-5212-9083
E-mail:tokyo_okayamaken@tdfk.or.jp

第五十六回岡山県人の集い

賑やかに開催

東京岡山県人会の平成十七年度総会と第五十六回県人の集いが、九月一日（木）、東京・ホテルオークラで約四百人の参加のもと盛大に開催されました。各界で活躍する県出身者のほか、地元岡山からは石井正弘岡山県知事をはじめとする行政関係者、さらには岡山経済界の代表者の方々にも多数参加していただき、懐かしいふるさとの話と味で交流を深めました。

まず、総会では、小長啓一会長（AOCホールディングス（株）相談役）、橋本徹副会長（ドイツ証券会社東京支店会長）、近藤晃副会長（株）日本航空 常任顧問、松尾道彦副会長（日本海事財団会長）が再任されました。



今年も新たに、各界で活躍の会員によるスピーチが行われたり、岡山国体、国民文化祭（平成二十二年に岡山で開催）、美作三湯のPRなど地元岡山のHOTな話題も伝えられ、賑わいのある集いとなりました。

さらに、岡山県出身者の大学生で構成されている青年会の学生がスタッフとして貢献し、若い力みなぎる県人の集いとなりました。



岡山県内の最近の主なニュース

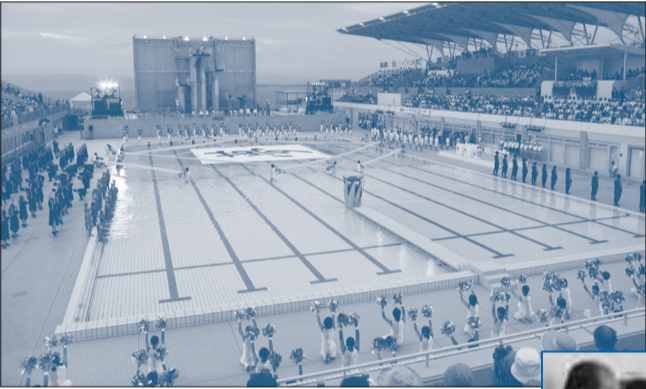
悲願の天皇杯・皇后杯獲得！

岡山県で四十三年ぶり二回目の開催となった「晴れの国おかやま国体」は、天皇・皇后両陛下、各皇族の御臨席を仰ぎ、県内各地で熱戦が繰り広げられ、岡山県は悲願であった初の天皇杯・皇后杯獲得を成し遂げました。

九月九日、国体史上初めて会期前日の夕映えの美しい瀬戸内海を背景に、児島マリンプールでの開会式で幕を明けた夏季大会には、約一万三千人の選手・監督が参加し、十七市町で正式競技・公開競技など二十一競技を開催。また、岡山県陸上競技場（桃太郎スタジアム）を主会場として開催した秋季大会は、二十九市町村で三十九競技が行われ、約二万五千人の選手・監督がその力と技を競いました。夏季・秋季大会を通じて、約六十三万人の観覧者が各競技会場に足を運び、日本トップクラスの選手達による感動のプレーに温かい声援を送りました。

簡素な中にも岡山らしい魅力と感動にあふれた新しいスタイルの国体を目指した「晴れの国おかやま国体」は、選手・監督、式典演技・音楽の出演者、競技運営を支えた市町村・関係団体・大会役員やボランティアの皆さん、多くの方々の御尽力により、成功裏に閉幕しました。

第60回国民体育大会「晴れの国おかやま国体」
●夏季大会 会期：9月10日～13日（9日：開会式）
主会場：児島地区公園水泳場（児島マリンプール）
●秋季大会 会期：10月22日～27日
主会場：岡山県陸上競技場（桃太郎スタジアム）



■夏季大会 開場全体をいっぱい使って開幕を迎える歓びを表現

■秋季大会 さわやかな秋空のもと、天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ華々しく開幕



■秋季大会 47都道府県選手団の最後を飾り、岡山県選手団420人が堂々の入場行進



■秋季大会 岡山の魅力をアピールした開会式のアトラクション



■全国障害者スポーツ大会 石井知事から井戸兵庫県知事・矢田神戸市長に、大会旗引き継ぎ

第5回全国障害者スポーツ大会
「輝いて！おかやま大会」
会期：11月5日～7日
主会場：岡山県陸上競技場（桃太郎スタジアム）

さわやかな秋空のもと、岡山県陸上競技場（桃太郎スタジアム）に皇太子殿下の御臨席を仰ぎ開幕した「輝いて！おかやま大会」は、競う人、応援する人、そして支える人が、それぞれの立場で参加し、喜びを分かち合える大会となることを目指し、岡山市、倉敷市、総社市、赤磐市の四市を会場として開催され、開・閉会式、各競技会を合わせて約九万人が参加し、正式競技十三と二つのオープン競技で熱戦が繰り広げられました。

自分の可能性を信じ競技に挑む姿を間近で応援し、「ふれあい広場」での交流や誘導・介助などのボランティア活動を通じて、障害者への理解を深めるとともに、温かいふれあいや交流が各地で生まれました。

九月十一日にかけて開催された「晴れの国おかやま国体」及び「輝いて！おかやま大会」は、「あなたがキラリ☆」のスローガンのとおり、参加する一人ひとりがキラリと輝いて、感動のうちに終了することができました。

ふれあい・感動のうちに ファイナーレ



首都圏の中のおかやま

「内田百間」 ゆかりの地



文京区の根津神社西側、弥生一番地。この辺りに、小説家・随筆家、内田百間が岡山から上京して学生時代を過ごした頃の宿があった。後に妻となる清子さんへの恋心が再燃し、暮る想いを秘めて百間らしい面白おかしい表現を使い、手紙をしたためていた頃にあたる。きっと、ここ根津神社界隈は、青春時代の甘い思い出がいっぱいつまったところだろう。

内田百間。非常に頑固偏屈で無愛想である一方、茶目っ気とユーモアにもあふれた人物としても知られている。百間は、明治二十二年（一八八九）、岡山市古京町の造り酒屋「志保屋」の一人息子として生まれた。鉄道や琴、書や俳句に夢中となり、恵まれた少年時代を過ごした。中学時代から、物事をつぶさに観察してその内面までも描くという写生文に優れ、地元新聞などにも投稿し、何度も掲載された。



■ 根津神社

また当時、夏目漱石の「吾輩は猫である」が刊行され、その初版をいち早く入手し、とても大切に読んだと言われる。次第



■ 弥生1番地辺り

主なゆかりの地

- 東京帝国大学 進学先
- 法政大学 講師として勤務(大正9年頃)
- 日本郵船(株) 嘱託として勤務(昭和14年頃)
- 金剛寺 葬儀、告別式

■ 内田百間 略歴 (資料提供：(財)岡山県郷土文化財団)

明治22年 (1889)	5月29日、岡山市古京町に父久吉・母峯の長男として誕生。名は榮造。生家は造り酒屋の志保屋。
明治28年 (1895)	6歳。環翠尋常小学校(現、岡山市立旭東小学校)に入学。
明治32年 (1899)	10歳。岡山高等小学校に入学。
明治35年 (1902)	13歳。県立岡山中学校(現、県立岡山朝日高等学校)に入学。中学校時代から「山陽新報」「文章世界」などに投稿を始める。
明治40年 (1907)	18歳。第六高等学校に入学。
明治43年 (1910)	21歳。東京帝国大学に入学。文学科でドイツ文学を専攻。在学中に夏目漱石を訪ね、その門下生となる。
大正元年 (1912)	23歳。初恋の堀野清子さんと結婚。2男3女に恵まれる。
大正 3年 (1914)	25歳。大学を卒業。
大正 5年 (1916)	27歳。陸軍士官学校のドイツ語教授となる。
大正 7年 (1918)	29歳。海軍機関学校兼務教官となる。後に、この頃のことを『百鬼園日記帖』として刊行。
大正 9年 (1920)	31歳～44歳(昭和8年)。法政大学教授としてドイツ語部を担当する。
大正11年 (1922)	33歳。創作集『冥途』を刊行。
大正12年 (1923)	34歳。陸軍砲工学校附陸軍教授となる。
昭和 8年 (1933)	44歳。この頃刊行した随筆集『百鬼園随筆』が好評を得る。
昭和 9年 (1934)	45歳。すべての教職を退き、文筆活動に専念。
昭和14年 (1939)	50歳～56歳(昭和20年)。日本郵船(株)に嘱託として入社し、文章の指南役を務める。後に、東京空襲前後の日記を『東京焼盡』として刊行。
昭和23年 (1948)	59歳。千代田区麹町六番町に新居完成。3畳を1列に3つ並べた小さな家で「三畳御殿」と称した。以後、百間の作品は、ここで書き続けられた。
昭和25年 (1950)	61歳。誕生日の祝宴「摩阿陀会(まあだかい)」が催される。10月に大阪までふらりと出かけた旅が、後々「阿房列車」となって書き続けられ、『第三阿房列車』まで刊行。
昭和27年 (1952)	63歳。新年のお客を一堂に会して「御慶会」を開催。以後、「摩阿陀会」とともに毎年開催される。
昭和34年 (1959)	70歳～81歳(昭和45年)。文筆活動の場を『小説新潮』に限り、「百鬼園随筆」として毎月連載する。
昭和40年 (1965)	76歳。長年にわたり身のまわりの世話をしてきた、佐藤こひさんと入籍。
昭和46年 (1971)	最後の随筆集『日没閉門』を刊行。4月20日夕刻没、享年82歳。戒名は、覚絃院殿随翁榮道居士。
昭和60年 (1985)	4月20日、岡山市小橋町の旭川河畔に文学碑を建立。



■ 金剛寺内墓

に漱石への傾倒を深め、六高時代には、自作の「老猫物語」を漱石に送り、物語として通読するには工夫も必要だが、観察眼や書き方は良いという評をもらった。その後、東京帝国大学在学中に、夏目漱石の門下生となった。百間にとって漱石は「絶対的な」存在であった。大学卒業を前にして、少年時代からの初恋を交わらせ、明治四十五年(1910)清子さんと結婚。二男三女にも恵まれた。大学卒業後、陸軍士官学校、法政大学のドイツ語教師として勤めたが、昭和九年、四十五歳の時に全ての教職を退き、文筆活動に専念する。その後、昭和十四年から六年間、日本

郵船(株)に嘱託として入社、文章の指南役を務めた。

五十九歳の時に、「三畳御殿」と称した三畳を1列に三つ並べた小さな家に移り(千代田区麹町六番町)、以後の作品を書き続けた。

還暦を迎えた翌年から教子や主治医を中心メンバーとして毎年「摩阿陀会(まあだかい)」という誕生日会が開かれた。これは、還暦を祝ったのにまだ成仏しないのか、即ち「まあだかい」に由来するもの。百間のユーモアを垣間見ることが出来るエピソードだ。黒澤明監督による映画「まあだだよ」はこの時期を映画化したものだ。

七十六歳の時に、清子夫人の死後、身の回りの世話をしてきた佐藤こひさんと入籍。昭和四十六年(一九七二)四月二十日、享年八十二歳の生涯を閉じる。遺言により、葬儀・告別式は、教子さんが住職を務めていた金剛寺(中野区上高田)で行われた。百間のお墓の傍らには、こひさんのお墓と「木蓮や塀の外吹く俄風」の句碑が建っている。

(資料提供：(財)岡山県郷土文化財団)

首都圏でのイベント情報

■ 西日本中央連携軸沿線都市による観光展

日時：12月5日(月)～9日(金)
場所：ふるさと情報プラザ(千代田区有楽町)
内容：倉敷市他9市のもたらううれしい心温まる品々の紹介
お問い合わせ先：倉敷市経済局観光企画課 Tel：086-426-3411

■ 第15回国際ミーティングエキスポ IME2005

日時：12月7日(水)～8日(木) 10:00～17:00
場所：東京国際フォーラム 展示ホール2(地下2階)(千代田区丸の内)
内容：コンベンション開催に関するあらゆる情報を提供する日本で唯一のイベント。岡山コンベンションビューローと倉敷観光コンベンションビューローが共同出展する。
お問い合わせ先：岡山コンベンションビューロー
Tel：086-803-1332(岡山市観光経済交流課内)
倉敷観光コンベンションビューロー
Tel：086-421-0224

■ 新酒のおいしいおもてなし 岡山・倉敷の地酒

日時：平成18年2月1日(水)～3日(金)
場所：ふるさと情報プラザ(千代田区有楽町)
内容：2市の共同出展。地酒の紹介、観光宣伝などを行う。
お問い合わせ先：岡山・倉敷観光推進協議会 Tel：086-803-1332

■ 第5回「岡山物産展」

日時：平成18年2月15日(水)～22日(水)
場所：京急百貨店(横浜市上大岡)
内容：岡山県内の各種特産品、工芸品、郷土料理等の販売
お問い合わせ先：岡山県産業貿易振興会 Tel：086-225-4765

事務局からのお知らせ

■ 新規会員の御紹介

県人会では、新しい会員を随時募集しています。職場、知人等で入会を希望される方がおられましたら、入会申込書を送付しますので、事務局まで御連絡ください。

■ 住所等変更手続き

県人会では、会員の皆さまに観光、特産品等の情報を提供したり、会員名簿の配布等を行っています。住所等の変更が生じた場合には、必ず事務局まで御一報ください。

■ 県人会会報に関する御意見等の募集

今後会報をよりよいものとするため、内容等について、皆さま方からの御意見・御要望をお待ちしています。

■ 連絡先

〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館10F 岡山県東京事務所内
東京岡山県人会事務局
TEL 03-5212-9080
TEL 03-5212-9080
FAX 03-5212-9083
E-mail tokyo_okayamaken@tdk.or.jp
http://pref.okayama.jp/somu/tokyo